日吉・矢上・SFC 3キャンパス対抗ビブリオバトル

嘉悦（かえつ） 梢（こずえ）
（理工学メディアセンター）

1 はじめに

ビブリオバトルとは，数名の発表者（バトラー）が集まって自分が読んだお気に入りの本を１人５分で紹介する知的書評合戦である。発表後はディスカッションを行い，全員が終了すると「どの本が一番読みたくなったか」を投票しチャンプ本を決める[1)]。もともとは大学の研究室で考えられたものが，2010年頃から書店をはじめ図書館にも広まっていった。

本学でもゼミなどでは行われていたようだが，図書館では湘南藤沢メディアセンター（以下「SFC」とする）が2014年６月に開催したのが始まりだ。続いて同年10月に矢上キャンパスの理工学メディアセンター（以下「矢上」とする）でも始まった。開催したキャンパスでは「各キャンパスのみで終わらせるのはもったいない。３キャンパス以上になったら，いつかキャンパス対抗戦がしたい！」と密かに夢が語られていた。2017年10月には日吉メディアセンター（以下「日吉」とする）での開催も決定し，その後，SFCのメディアセンターフレンズ[2)]の発案をきっかけに，ようやく３キャンパス対抗戦への一歩を踏み出した。

2 開催までの道のり

キャンパス対抗戦を行うには，まず各キャンパスからその年のチャンプ本を紹介したバトラー（以下「チャンプ」とする）を含む１～２名のバトラーが参加してくれないことには始まらない。また，観覧者参加型のゲームなので観覧者を集めるためには，期末試験期でない授業期間に日程を組む必要がある。

2017年のキャンパス戦は日吉・矢上が10月，SFCが12月を予定していた。３キャンパス対抗戦の企画が持ち上がったのは，SFCキャンパス戦の開催が決定してからだ。この日程が12月13日だったため，それ以降で日吉・矢上のバトラーの都合を優先させて１週間後の12月20日とした。会場は人の集まりやすさなどを考慮し，日吉に決定した。

準備は３キャンパスで分担し，日吉は会場の確保，設営，備品の準備，矢上は当日の撮影や会場設営補助，SFCではメディアセンターフレンズ２名に司会を依頼し，事前に打ち合わせも行った。また，人目をひく告知ポスターもメディアセンターフレンズがデザインしてくれた。さらに日吉でのキャンパス戦の際に，名司会で会場を盛り上げてくれた図書館フレンズ[3)]の一人も司会の補助として参加してくれることになった。

日吉，矢上では，一足先にチャンプと各メディアセンターの所長賞の２名に声をかけ始めた。反応はそれぞれで，すぐに快諾してくれた学生もいれば，対抗戦に発展すると思いもせず「キャンパス戦で全力を出し切ってしまった。あの時以上の力を出せるかわからないので，考えさせてほしい」と，返答をくれた学生もいた。我々が考えている以上に真剣に参加してくれていたようで，ビブリオバトル開催の意義があったと思える。しかし，ここまで真剣ならなおさら対抗戦に出てもらいたい，と欲が出てしまった。そこからは，図書館で見かけるたびに声をかけ，キャンパス戦でその学生の熱い発表がいかに面白かったか，どれほどその本が読みたくなったかを訴えて参加を呼びかけた。並行して，SFCではキャンパス戦参加者を募集していた。バトラーが集まるのか，そこで選ばれたチャンプが対抗戦に参加してくれるのか，不安が募るばかりだった。SFCのバトラーからすると，１週間後にキャンパス対抗戦が行われるという日程は，かなり負担が大きい。バトラーが集まることを祈りながら，対抗戦の告知を始めた。結果としてSFCでは４名のバトラーが集まり，無事にビブリオバトルを開催することができた。

幸いなことに各キャンパスのチャンプを含め，日吉２名，矢上２名，SFC１名が最終的にバトラーとして参加してくれることになり対抗戦への舞台が整った。

3 3キャンパス対抗戦

当日は授業の関係もあり，開始時刻10分前にバトラーが初顔合わせしたほど慌ただしいものだった。観覧者も５時限目の授業を終えて，日吉１階のラウンジへと集まり始めた。ポスターや館内放送の効果

は大きかったが，キャンパス戦で興味を持って来てくれた学生もいたようだ。

幅広い世代の観覧者が見つめる中，キャンパス対抗ビブリオバトルが始まった。面白いもので，キャンパス戦では流暢に語っていた学生が言葉につかえてしまう場面や，かえって大勢の人前の方が生き生きと話せる学生もいた。各々の個性が存分に発揮された戦いで，観覧者も誰に投票するか悩ましかっただろう（図１）。

図１　ビブリオバトルのプレゼン風景

最後の参加者投票では，２名のバトラーがまさかの同点トップとなった。同点によるチャンプの決め方は様々で，同点者だけで再度投票を行う方法や，じゃんけん，という場合もある。しかしここでは，決勝戦を行うことになった。決勝戦の難しいところは，先ほど５分で語りつくした本をまた紹介するということだ。最初に紹介したネタ以外にさらに魅力を引き出し，観覧者を飽きさせないことが必要になる。決勝戦に進出したバトラーは再び戦うことに困惑しただろうが，観覧者としては，さらに何が語られるのか興味津々で見守ったに違いない。

この決勝戦を勝ち抜きチャンプ本に輝いたのは，矢上のバトラーが紹介した『暗幕のゲルニカ』だった。なぜある日，ゲルニカのタペストリーが消えたのか？　思わず読みたくなった観覧者も多かったことだろう。5名のバトラーに本を紹介してもらったが，普段自分で手に取らない本でも５分の発表によって興味を持つことができる。こうして簡単に本や人の異文化交流ができるのだ。

ビブリオバトル終了後，初対面のバトラー達がお互いの本について，とても楽しそうに話をしていたのが印象的だった。片付けをしながらも聞こえてくるのは，本が大好きで他の人と語り合いたいなど，まさしくビブリオバトルの醍醐味だった。これまでの苦労も，あの終了後の交流によってかき消された（図２）。

図２　ビブリオバトル終了後の和やかな記念撮影

４　おわりに

３キャンパス対抗戦のアンケートでは好意的な意見が大半で，ビブリオバトルに興味を持っている，本に興味がある，という人が多かった。感想には「短時間で一冊の本の内容を懸命に語る姿は感動的…」「どの本も読みたくなった」など嬉しい意見が散見された。ただし，「もう少しディスカッションを」，という意見や，「観覧者も参加者としてビブリオバトルのルールを理解すべきと」いうような意見もあり，運営側として至らなかった部分を反省しつつ，この意見を次回にどう活かしていくか考えたい。

最後に，３キャンパス対抗ビブリオバトルの成功には，司会，運営をしてくれたメディアセンターフレンズと図書館フレンズの力が大きかったことを伝えておきたい。彼らの貢献には深く感謝している。今後もビブリオバトルのほか，学生と共同でできる新しい企画に挑戦できればと思っている。

注

１）ビブリオバトル普及委員会．知的書評合戦ビブリオバトル公式ウェブサイト
http://www.bibliobattle.jp/（参照　2018-08-17）

２）湘南藤沢メディアセンター．メディアセンターフレンズ
http://www.sfc.lib.keio.ac.jp/about/mcfriends/
（参照　2018-08-17）

３）日吉メディアセンター．図書館フレンズ
http://www.hc.lib.keio.ac.jp/studyskills/friends.html
（参照　2018-08-17）